

令和 7 (2025) 年度科研費の審査に係る総括

1. 審査全体の総括

科研費事業は、人文学、社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）を格段に発展させることを目的とする「競争的研究費」であり、ピアレビュー（研究者コミュニティから選ばれる研究者による審査）により、豊かな社会発展の基盤となる独創的・先駆的な研究に対する助成を行うものである。

令和 7 (2025) 年度の日本学術振興会（以下「振興会」という。）審査担当分の各種目に係る公募については、「電子申請システム」を活用し応募書類の受付を行い、審査については、科学研究費委員会（別紙 1－1）に置かれる各部会等において、「科学研究費事業における審査及び評価に関する規程」（独立行政法人日本学術振興会科学研究費委員会決定）に基づき、6,964 名の審査委員によるピアレビューを実施した。審査は、研究種目の目的や趣旨に即した審査プロセスや方法を構築し、多様な応募研究計画に対応できる審査体制を整備して適切に行われた。加えて、年度当初から研究活動が円滑に進められるよう、令和 7 (2025) 年 1 月上旬～ 3 月下旬に研究代表者等に対して審査結果を通知した。

2. 主な研究種目の審査状況

令和 7 年度の審査結果は、新規応募総数は 94,673 件に対して新規採択件数 25,955 件となった。各研究種目の審査結果（詳細は別紙 3 を参照）、主な種目の審査状況及び審査委員から寄せられた意見は以下のとおりである。

【審査結果】

研究種目	応募件数	採択件数	審査方式
特別推進研究	70	8	総合審査 (書面審査+合議審査)
基盤研究 (S) ※	568	69	
基盤研究 (A) ※	2,468	643	
挑戦的研究 (開拓) ※	1,664	184	
挑戦的研究 (萌芽) ※	9,001	1,100	2 段階書面審査 (ただし奨励研究および 研究活動スタート支援は 一度の書面審査で採否を決定)
基盤研究 (B) ※	12,312	3,290	
基盤研究 (C) ※	46,497	12,756	
若手研究※	13,883	5,585	
奨励研究※	2,653	386	
研究活動スタート支援※	4,617	1,533	
研究成果公開促進費	940	401	—
合 計	94,673	25,955	—

※応募件数が多数となったため、審査区分を分割して複数の小委員会を設けて審査を行った。

【主な種目の審査状況及び審査委員から寄せられた意見】

○特別推進研究

新しい学術を切り拓く真に優れた独自性のある研究であって、格段に優れた研究成果が期待される研究計画を支援する特別推進研究については、研究の独創性及び研究の意義、研究分野の現状と動向及びその中での当該研究の位置づけ、研究遂行能力の適切性等の観点から審査を行い、応募額を最大限尊重した配分を行った。今回の審査から、ヒアリングにおける採否結果をエクセル様式に入力して提出する方法から、電子審査システム上で入力する方法に変更した。審査委員からは、事務局にエクセル様式を送信する手間が減り良かったという意見があり、入力した結果もすぐに電子審査システムに反映されて分かりやすかったという意見もあった。

○基盤研究

独創的、先駆的な研究を格段に発展させる研究計画を支援する基盤研究については、研究課題の学術的重要性、研究方法の妥当性、研究遂行能力及び研究環境の適切性の観点を中心に審査を行った。各種目の審査委員からは、以下の意見があった。

- ・総合審査（ヒアリング含む）を実施した基盤研究（S）の審査委員からは、大区分での審査のため専門から離れている分野の審査が難しく、区分の設定や分割方法について見直しが必要といった意見があった。一方で、機械分割のある区分では、第1回の合議審査後に、他の委員会の審査結果や審査意見を共有する期間があると良いといった意見もあった。

- ・基盤研究（A、B、C）では、今回より審査基準として「研究課題の国際性」を追加し、「国際性」の評価が高い課題については、他よりも充足率に配慮したうえで配分額を決定した。「国際性の評点要素」は採否に反映してもよいのでは、という意見があった一方で、「国際性」を重視することになった経緯や「国際性」が意味するものが分かりにくいといった意見があり、公募要領等への明記を要望する意見があった。また、特に基盤研究（C）においては「国際性」の高い学術研究を要求するのは研究の規模を考慮すると難しいのではないかといった意見があった。

○挑戦的研究（開拓・萌芽）

斬新な発想に基づき、これまでの学術の体系や方向を大きく変革・転換させることを志向し、飛躍的に発展する潜在性を有する研究計画を支援する挑戦的研究については、アイデアの斬新性など挑戦的研究としての意義を重視した審査を行い、応募額を最大限尊重した配分を行った。審査委員からは、規模や実現性の観点から基盤研究に寄った挑戦性に乏しい課題も見受けられることから、審査プロセスなど、（開拓）（萌芽）の一体的な見直しを求める意見があった。一方、採択率が低い、充足率を下げても採択率を上げてほしいという意見もあった。

○若手研究

博士の学位を取得後8年未満の研究者の優れた研究計画を支援する若手研究については、研究課題の学術的重要性、研究方法の妥当性、研究遂行能力及び研究環境の適切性の観点から審査を行った。産前産後の休暇・育児休業期間に加え、令和6年度の審査より、新たに「未就学児の養育期間」を配慮期間とした結果、応募者は昨年度の3倍以上に増加した（令和6年度：118名、令和7年度：393名）。子どもが保育園から小学校へ入学する際に仕事と育児の両立が難しくなる、いわゆる「小1の壁」に対応するべく、配慮期間を小学1年生まで延長するのはどうか、という意見があった。ま

た、近年の物価及び為替変動等の外的要因に対して充足率を上げる等の対応を行うべきではないか、という意見があった。

○研究活動スタート支援

研究機関に採用されたばかりの研究者や未就学児の養育等から復帰する研究者のうち、前年秋の募集時期に応募できなかった研究者の優れた研究計画を支援する研究活動スタート支援について、研究課題の学術的重要性、研究方法の妥当性、研究遂行能力及び研究環境の適切性の観点から審査を行った。令和6年度の審査から、応募要件（B）では産前産後の休暇・育児休業期間に加えて新たに「未就学児の養育期間」を配慮期間とした結果、当該応募要件（B）での応募者は昨年度に続き増大した（令和5年度：81名、令和6年度：150名、令和7年度：238名）。また、令和6年度より審査の方式が2段階書面審査から1段階での書面による審査に変更された点については肯定的な意見が多く、審査結果通知の早期化により、別の基盤研究等への応募に向けた準備期間を確保しやすいといった意見が多くあった。一方、審査が1段階になったことによる審査の適切性への影響の確認が必要ではないか、といった意見もあった。

【審査における多様性の確保】

審査委員については、日本学術振興会学術システム研究センターの複数の研究員が、審査委員候補者データベースに登録されている研究者の中から、専門分野ごとに作成した候補者案を基に振興会が選考している。候補者案の作成にあたっては、学術分野に精通し公正で十分な評価能力を有する者を選考するとともに、国際的な視野を持つ者であることにも配慮した。

また、審査委員の多様性に配慮する観点から、女性研究者等の積極的な登用に努め、所属研究機関のバランスなどにも配慮した審査体制としたことに加え、特別推進研究においては海外の研究者による専門的な立場からの意見も活用するなど、多様でより広い評価の視点を確保した。

なお、令和7年度審査における女性審査委員は1,899名であった。（詳細は別紙1－2を参照）

3. 今後の審査に向けて

学術研究は、研究者同士が建設的に評価・審査しあうピアレビューのシステムにより発展してきた。科研費のピアレビューをより一層充実させるためにも、審査委員からの様々な意見だけでなく、審査の検証及び検証によって蓄積された情報も適切に反映・活用し、さらに公正で透明性の高い審査・評価システムとなるよう引き続き改善に取り組む必要がある。

優れた研究課題を採択する上で、審査委員の多様性は極めて重要であることから、総合審査における合議審査の場などの活用により審査委員の育成を進めていくとともに、引き続き女性研究者、審査委員未経験者及び若手研究者の審査委員への登用に努める。

また、令和6年度審査より研究活動スタート支援、および令和7年度審査より奨励研究において審査方式が2段階書面審査から1段階での書面による審査に変更された。審査の効率化や研究者人口の減少といった状況変化に対応し、審査システムを将来にわたって持続可能なカタチで再構築することは、審査委員だけでなく応募者にとってもメリットが大きい。審査委員は新しい価値を創造する第一線の研究者でもあり、研究者の研究時間の確保は重要であることから、研究者が研究に専念できる環境を実現できるよう、研究種目の目的、性格等に応じてメリハリをつけた持続可能な審査システムの在り方の検討が強く望まれている。

さらに、令和7年度審査より基盤研究（A、B、C）の審査基準として「研究課題の国際性」を追加し、「国際性」の評価が高い課題については他よりも充足率に配慮した上で配分額を決定したと

ころである。我が国の研究力の相対的・長期的な低下が懸念される中、研究者が国際競争力のある研究に十分取り組める環境を実現することが重要であり、同審査基準により引き続き国際性を発揮できる研究を見出していく必要がある。

加えて、振興会では、「科学研究費助成事業の合議審査の開催形式に係る基本方針について」において、当面の間「Web 会議形式」による合議審査を基本とすることを決定している。審査資料の電子化を進めるとともに、今後も審査業務のデジタル・トランスフォーメーション（DX）等により、業務効率化を一層推進していく必要がある。

参 考 資 料

(別紙 1－1) 科学研究費委員会組織図

(別紙 1－2) 審査委員候補者の推移及び令和7(2025)年度審査における審査

委員の状況

(別紙 2) 研究種目別の公募・審査の状況

(別紙 3) 令和 7 (2025)年度科学研究費助成事業の審査結果

(別紙 4) 研究種目別の応募件数・採択件数の推移

(別紙 5) 研究機関種別の応募・採択等の状況

(別紙 6) 職種別の応募・採択等の状況

(別紙 7) 男女別の応募・採択等の状況

(別紙 8) 年齢別の応募・採択等の状況

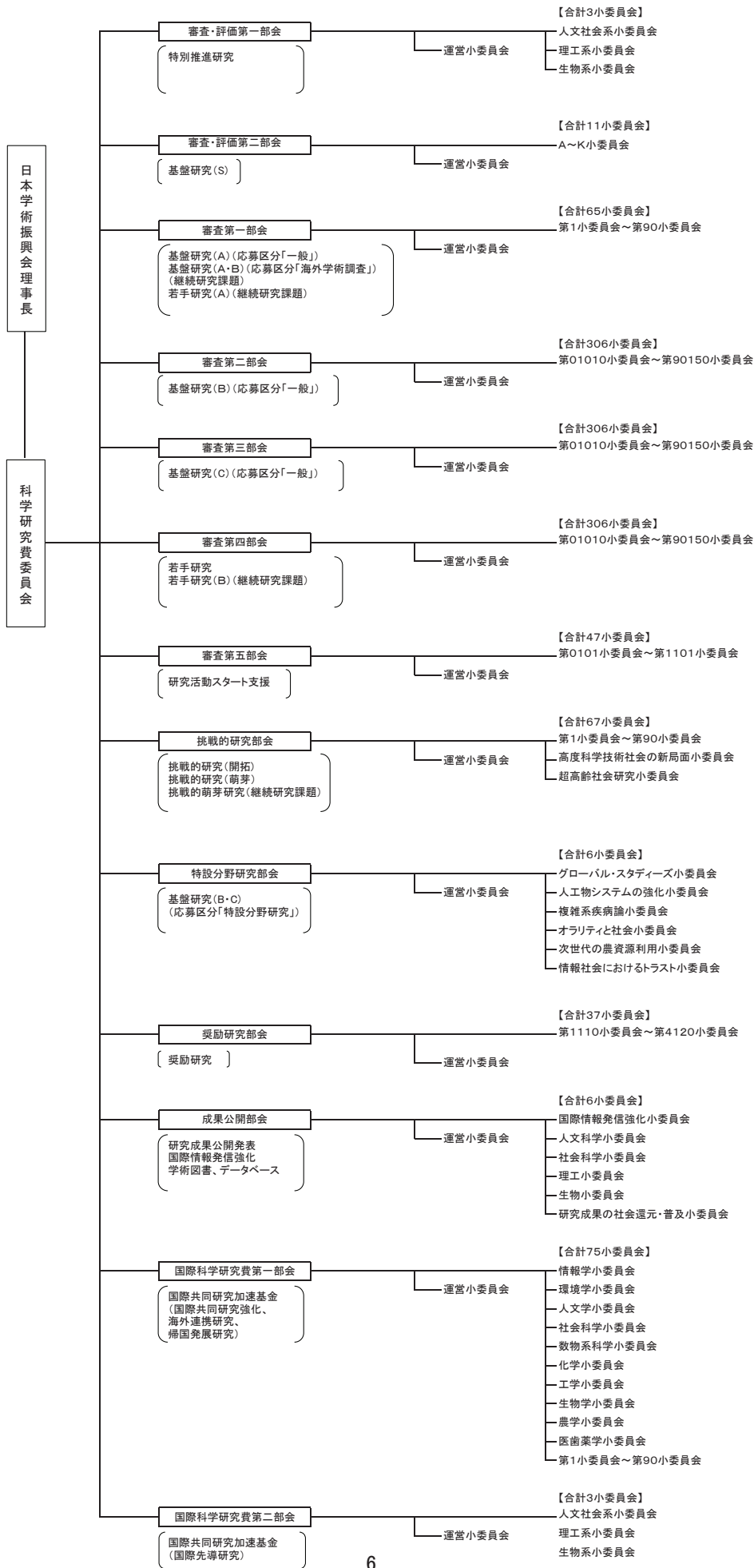
注 1) 別紙 3 及び別紙 5～8 に記載の配分額は直接経費の配分額を指す。

注 2) 別紙 5～8 について、科研費の審査（ピアレビュー）に当たっては研究者の属性等を考慮した審査は行っていないが、審査結果の参考として集計したもの。

科学研究費委員会組織図

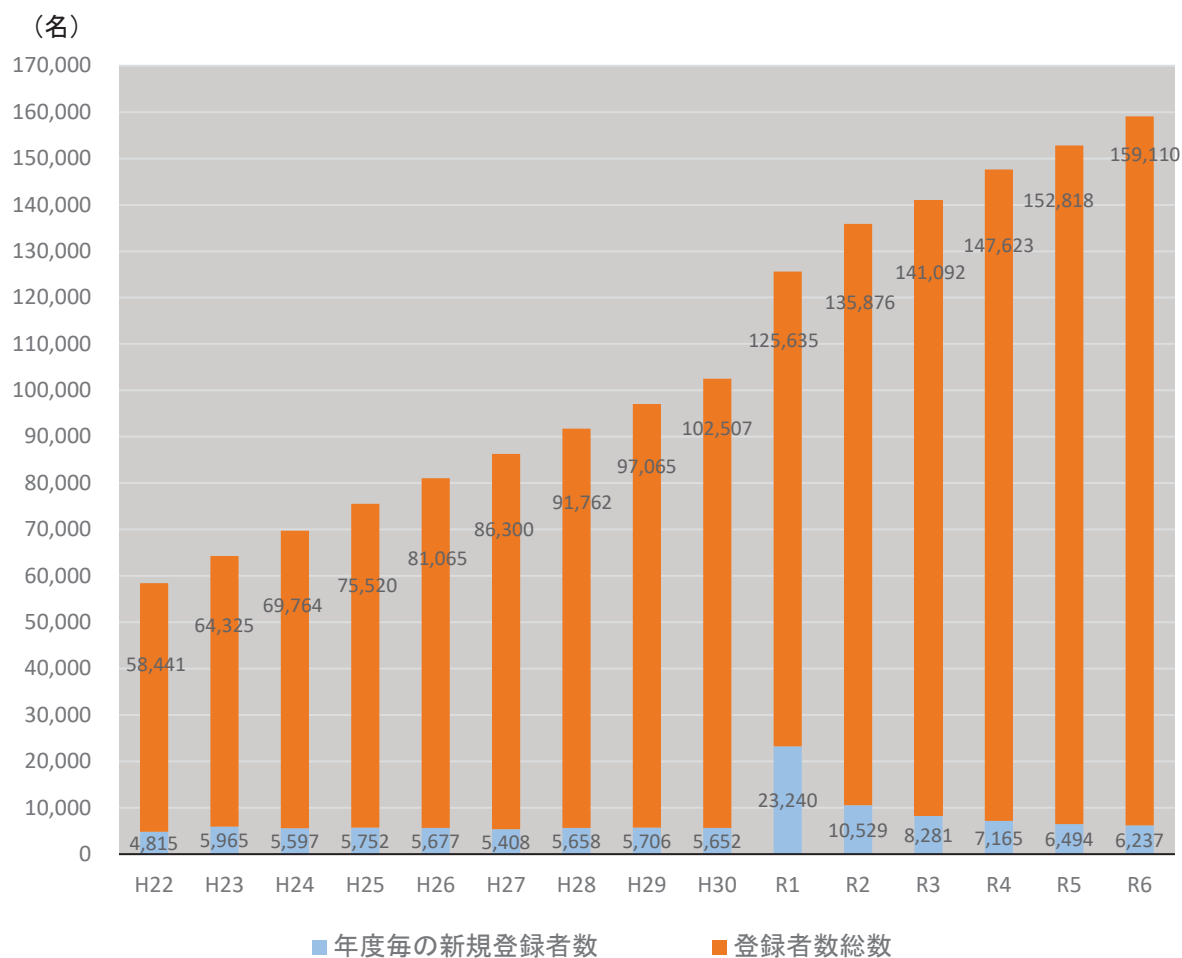
別紙1-1

【小委員会合計: 1, 238小委員会(分割及び合同は含まない)】

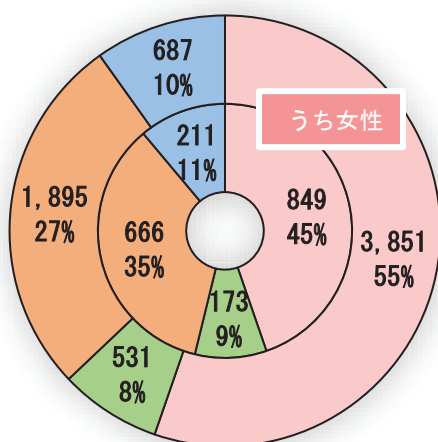


審査委員候補者の推移及び令和7年度審査における審査委員の状況

○審査委員候補者データベースの登録者数の推移



○令和7年度審査における審査委員の状況



	審査委員数	うち女性
国立大学	3,851	849
公立大学	531	173
私立大学	1,895	666
その他	687	211
計	6,964	1,899

研究種目別の公募・審査の状況

○公募

応募書類は、「電子申請システム」を活用して研究種目ごとに受付を行った。

研究種目	公募期間
特別推進研究、基盤研究（S）	令和6（2024）年4月12日～6月18日
基盤研究（A・B・C）、挑戦的研究（開拓・萌芽）、若手研究、奨励研究、研究成果公開促進費	令和6（2024）年7月16日～9月18日
研究活動スタート支援	令和7（2025）年3月1日～5月8日

○審査

「科学研究費助成事業における審査及び評価に関する規程」に基づき、上記種目について6,820名（国際種目を含まない）の審査委員により審査を実施した。

(1) 特別推進研究

審査組織	審査・評価第一部会に置かれる専門分野ごとの3小委員会（審査委員数32名（以下同じ。））及び運営小委員会（8名）	
審査方法	・審査方式：総合審査（書面審査及び合議審査） ・審査区分：「人文社会系」、「理工系」及び「生物系」（審査委員8名～14名） ・審査意見書（応募研究課題と専門分野が近い国内の研究者各3名程度が作成）も活用し、書面審査及びヒアリング研究課題を選定する合議審査を実施 ・第1回合議審査で用いた資料に加えて、審査意見書（応募研究課題と専門分野が近い海外の研究者各3名程度が作成）も活用し、ヒアリングを実施 ・研究計画調書をもとに、書面審査の内容・第1回合議審査の内容・ヒアリングの内容を総合的に判断し、合議により採択研究課題を決定	
審査等の経過	令和6（2024）年 7月22日～8月21日	審査意見書作成者（国内：208名）が審査意見書を作成
	令和6（2024）年 8月13日～9月24日	書面審査
	令和6（2024）年 10月16日～10月29日	第1回合議審査（ヒアリング研究課題の選定）
	令和6（2024）年 11月5日～11月22日	審査意見書作成者（海外：29名）が審査意見書を作成
	令和6（2024）年 12月3日～12月6日	第2回合議審査（ヒアリングの実施、採択候補研究課題の選定）
	令和6（2024）年 12月23日	運営小委員会（各小委員会の審査結果を踏まえ、採択研究課題を決定）

(2) 基盤研究 (S)

審査組織	審査・評価第二部に置かれる専門分野ごとの 19 小委員会 (114 名) 及び運営小委員会 (21 名)	
審査方法	・ 審査方式：総合審査（書面審査及び合議審査） ・ 審査区分：大区分（審査委員 6 名～18 名） ・ 審査意見書（応募研究課題と専門分野に近い国内の研究者 3 名が作成）も活用し、書面審査及びヒアリング研究課題を選定する合議審査を実施 ・ 研究計画調書をもとに、書面審査の内容・第 1 回合議審査の内容・ヒアリングの内容を総合的に判断し、合議により採択研究課題を決定	
審査等の経過	令和 6 (2024) 年 7 月 22 日～8 月 21 日	審査意見書作成者 (1,491 名) が審査意見書を作成
	令和 6 (2024) 年 8 月 19 日～9 月 26 日	書面審査
	令和 6 (2024) 年 10 月 23 日～11 月 8 日	第 1 回合議審査（ヒアリング研究課題の選定）
	令和 6 (2024) 年 12 月 18 日～ 令和 7 (2025) 年 1 月 23 日	第 2 回合議審査（ヒアリングの実施、採択候補研究課題の選定）
	令和 7 (2025) 年 2 月 7 日	運営小委員会（各小委員会の審査結果を踏まえ、採択研究課題を決定）

(3) 基盤研究 (A)

審査組織	審査第一部に置かれる専門分野ごとの 82 小委員会 (590 名)	
審査方法	・ 審査方式：総合審査（書面審査及び合議審査） ・ 審査区分：中区分（審査委員 7 名～8 名） ・ 書面審査及び合議審査を行い、採択研究課題を決定	
審査の経過	令和 6 (2024) 年 10 月 16 日～11 月 22 日	書面審査
	令和 6 (2024) 年 12 月 16 日 ～令和 7 (2024) 年 1 月 24 日	合議審査を実施（採択研究課題を決定）

(4) 挑戦的研究

審査組織	挑戦的研究部に置かれる専門分野ごとの 76 小委員会 (555 名)	
審査方法	・ 審査方式： （開拓）総合審査（書面審査及び合議審査） （萌芽）2 段階書面審査 ・ 審査区分：中区分 ・ 事前の選考[各小委員会に属する審査委員（7 名～8 名）のうち 3 名が研究計画調書（概要版）を用いて審査]により採択候補研究課題を絞り込む。（応募件数が少ない審査区分においては事前の選考は実施しない。）	

	・審査委員全員が研究計画調書を用いて書面審査 ・合議審査により採択研究課題を決定	
審査の経過	令和 6 (2024) 年 10 月 24 日～12 月 3 日	(開拓) (萌芽) 事前の選考
	令和 7 (2025) 年 1 月 22 日～3 月 3 日	(開拓) 書面審査 (萌芽) 1 段階目の書面審査
	令和 7 (2025) 年 4 月 7 日～5 月 9 日	(開拓) 合議審査を実施 (採択研究課題を決定)
	令和 7 (2025) 年 5 月 12 日～5 月 23 日	(萌芽) 2 段階目の書面審査

(5) 基盤研究 (B)

審査組織	審査第二部会に置かれる専門分野ごとの 293 小委員会 (1, 509 名)	
審査方法	・審査方式：2 段階書面審査 ・審査区分：小区分（一部の小区分については複数の小区分での合同審査を実施）（審査委員 6～9 名） ・2 段階にわたり書面審査を行い、採択研究課題を決定	
審査の経過	令和 6 (2024) 年 10 月 22 日～12 月 5 日	1 段階目の書面審査
	令和 7 (2025) 年 1 月 10 日～1 月 27 日	2 段階目の書面審査 (採択研究課題を決定)

(6) 基盤研究 (C)

審査組織	審査第三部会に置かれる専門分野ごとの 633 小委員会 (1, 899 名)	
審査方法	・審査方式：2 段階書面審査 ・審査区分：小区分（審査委員 3 名） ・2 段階にわたり書面審査を行い、採択研究課題を決定	
審査の経過	令和 6 (2024) 年 10 月 22 日～12 月 5 日	1 段階目の書面審査
	令和 6 (2024) 年 1 月 10 日～1 月 27 日	2 段階目の書面審査 (採択研究課題を決定)

(7) 若手研究

審査組織	審査第四部会に置かれる専門分野ごとの 348 小委員会 (1, 044 名)	
審査方法	・審査方式：2 段階書面審査 ・審査区分：小区分（審査委員 3 名） ・2 段階にわたり書面審査を行い、採択研究課題を決定	
審査の経過	令和 6 (2024) 年 10 月 22 日～12 月 5 日	1 段階目の書面審査

	令和 7 (2025) 年 1 月 10 日～1 月 27 日	2 段階目の書面審査（採択研究課題を決定）
--	------------------------------------	-----------------------

(8) 研究活動スタート支援

審査組織	審査第五部会に置かれる専門分野ごとの 68 小委員会（204 名）	
審査方法	・ 審査方式：書面審査 ・ 審査区分：「研究活動スタート支援 審査区分」（審査委員 3 名） ・ 1 段階の書面審査を行い、採択研究課題を決定	
審査の経過	令和 7 (2025) 年 5 月 27 日～6 月 26 日	1 段階の書面審査（採択研究課題を決定）

(9) 奨励研究

審査組織	奨励研究部会に置かれる専門分野ごとの 53 小委員会（159 名）	
審査方法	・ 審査方式：書面審査 ・ 審査区分：「奨励研究 審査区分表」（審査委員 3 名） ・ 1 段階の書面審査を行い、採択研究課題を決定	
審査の経過	令和 6 (2024) 年 10 月 22 日～12 月 5 日	1 段階の書面審査（採択研究課題を決定）

(10) 研究成果公開促進費（研究成果公开发表、国際情報発信強化、学術図書、データベース）

審査組織	成果公開部会に置かれる 6 小委員会（105 名）及び運営小委員会（6 名）		
審査方法	国際情報発信強化	〔国際情報発信強化（A）・オープンアクセス刊行支援〕	・ 国際情報発信強化小委員会に属する 15 名（学術団体等における学術刊行物の編集長、刊行業務担当等の運営又は実務経験者）の審査委員が書面審査を実施 ・ 小委員会において合議審査により採択課題を決定
		〔国際情報発信強化（B）〕	・ 国際情報発信強化小委員会に属する 6 名の関連審査委員が書面審査を実施 ・ 小委員会において合議審査により採択課題を決定
	研究成果公开发表（研究成果公开发表（B）のうち、「ひらめき☆ときめきサイエンス」を除く）、学術図書、データベース		・ 各小委員会に属する 3 名の関連審査委員が書面審査を実施 ・ 各小委員会において合議審査により採択課題を決定
	研究成果公开发表（B）のうち、「ひらめき☆ときめきサイエンス」		・ 研究成果の社会還元・普及小委員会に属する 21 名の審査委員が書面審査を実施 ・ 合議審査により採択課題を決定

審査の経過	国際情報発信強化	令和 6 (2024) 年 11 月 25 日～令和 7 (2025) 年 1 月 6 日	書面審査
		令和 7 (2025) 年 2 月 4 日	合議審査 (採択課題を決定)
	研究成果公開発表 (研究成果公開発表 (B) のうち、「ひらめき☆ときめきサイエンス」を除く)、学術図書、データベース	令和 6 (2024) 年 11 月 25 日～令和 7 (2025) 年 1 月 6 日	書面審査
		令和 7 (2025) 年 1 月 20 日～3 月 7 日	合議審査 (採択課題を決定)
	研究成果公開発表 (B) のうち、「ひらめき☆ときめきサイエンス」	令和 6 (2024) 年 11 月 25 日～令和 7 (2025) 年 1 月 6 日	書面審査
		令和 7 (2025) 年 2 月 10 日	合議審査 (採択候補課題を決定)
		令和 7 (2025) 年 2 月 17 日	研究成果の社会還元・普及小委員会において採択課題を決定

令和7(2025)年度科学研究費助成事業の審査結果

新規採択分

令和7(2025)年10月現在

研究種目	研究課題数			研究経費 配分額	1課題当たりの配分額	
	応募	採択	採択率		平均	最高
	件	件	%	千円	千円	千円
科学研究費	〔 91,198 〕 93,724	〔 25,046 〕 25,545	〔 27.5 〕 27.3	〔 55,729,500 〕 58,309,173 【 17,442,840 】	〔 2,225 〕 2,283	〔 243,600 〕 143,600
(1)特別推進研究	〔 72 〕 70	〔 10 〕 8	〔 13.9 〕 11.4	〔 1,194,000 〕 822,700 【 246,810 】	〔 119,400 〕 102,838	〔 243,600 〕 143,600
(2)基盤研究(S)	〔 547 〕 568	〔 65 〕 69	〔 11.9 〕 12.1	〔 3,143,900 〕 3,004,400 【 901,320 】	〔 48,368 〕 43,542	〔 115,500 〕 126,300
(3)基盤研究(A)	〔 2,320 〕 2,468	〔 632 〕 643	〔 27.2 〕 26.1	〔 7,482,700 〕 7,778,800 【 2,333,640 】	〔 11,840 〕 12,098	〔 32,800 〕 34,900
(4)基盤研究(B)	〔 11,875 〕 12,312	〔 3,327 〕 3,290	〔 28.0 〕 26.7	〔 16,619,000 〕 17,085,500 【 5,125,650 】	〔 4,995 〕 5,193	〔 12,900 〕 17,200
(5)基盤研究(C)	〔 45,713 〕 46,497	〔 12,551 〕 12,756	〔 27.5 〕 27.4	〔 15,845,100 〕 16,264,300 【 4,879,290 】	〔 1,262 〕 1,275	〔 3,400 〕 4,700
(6)挑戦的研究(開拓)	〔 1,564 〕 1,664	〔 170 〕 184	〔 10.9 〕 11.1	〔 1,161,400 〕 1,187,100 【 356,130 】	〔 6,832 〕 6,452	〔 18,100 〕 18,700
(7)挑戦的研究(萌芽)	〔 9,083 〕 9,001	〔 1,073 〕 1,100	〔 11.8 〕 12.2	〔 2,431,100 〕 2,507,100 【 752,130 】	〔 2,266 〕 2,279	〔 4,600 〕 4,800
(8)若手研究	〔 13,207 〕 13,883	〔 5,290 〕 5,585	〔 40.1 〕 40.2	〔 7,465,800 〕 7,923,400 【 2,377,020 】	〔 1,411 〕 1,419	〔 3,500 〕 3,600
(9)研究活動スタート支援	〔 4,179 〕 4,617	〔 1,521 〕 1,533	〔 36.4 〕 33.2	〔 1,613,800 〕 1,569,500 【 470,850 】	〔 1,061 〕 1,024	〔 2,000 〕 2,000
(10)奨励研究	〔 2,638 〕 2,644	〔 407 〕 377	〔 15.4 〕 14.3	〔 176,170 〕 166,373	〔 433 〕 441	〔 470 〕 480
研究成果公開促進費	〔 938 〕 940	〔 424 〕 401	〔 45.2 〕 42.7	〔 502,800 〕 472,000	〔 1,186 〕 1,177	〔 10,900 〕 7,000
研究成果公開発表	〔 333 〕 376	〔 217 〕 218	〔 65.2 〕 58.0	〔 122,700 〕 130,500	〔 565 〕 599	〔 7,700 〕 6,000
国際情報発信強化	〔 33 〕 23	〔 10 〕 7	〔 30.3 〕 30.4	〔 50,200 〕 23,200	〔 5,020 〕 3,314	〔 10,900 〕 3,600
学術図書	〔 516 〕 491	〔 172 〕 151	〔 33.3 〕 30.8	〔 267,700 〕 247,200	〔 1,556 〕 1,637	〔 5,100 〕 6,900
データベース	〔 56 〕 50	〔 25 〕 25	〔 44.6 〕 50.0	〔 62,200 〕 71,100	〔 2,488 〕 2,844	〔 7,100 〕 7,000
合 計	〔 92,136 〕 94,664	〔 25,470 〕 25,946	〔 27.6 〕 27.4	〔 56,232,300 〕 【 17,087,040 】 58,781,173 【 17,442,840 】	〔 2,208 〕 2,266	〔 243,600 〕 143,600

(注1)上段〔 〕内は前年度、下段【 】は間接経費(外数)を示す。

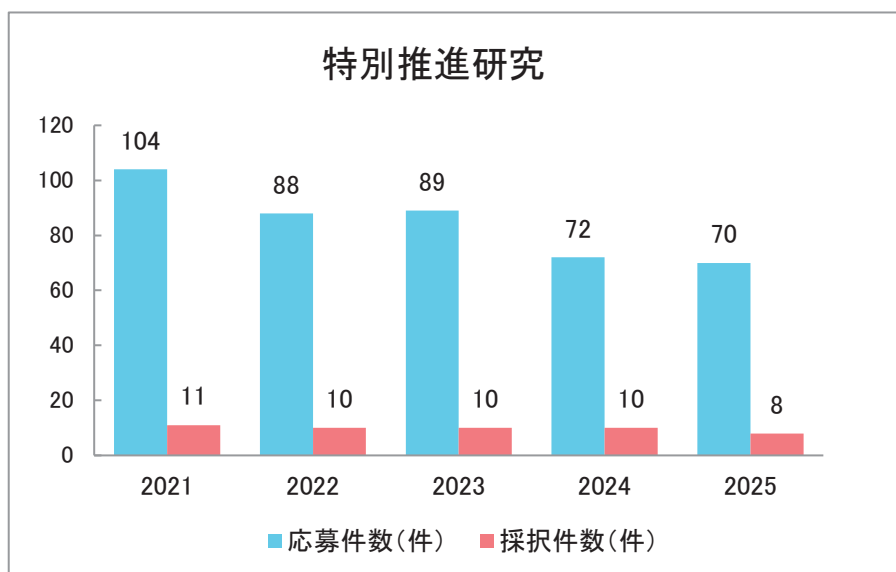
(注2)基盤研究(C)、挑戦的研究(開拓・萌芽)、若手研究については、基金種目であるため、「配分額」欄及び「1課題あたりの配分額」欄には、令和7年度の当初計画に対する配分額を計上。

(注3)「特別研究員奨励費」は含まない。

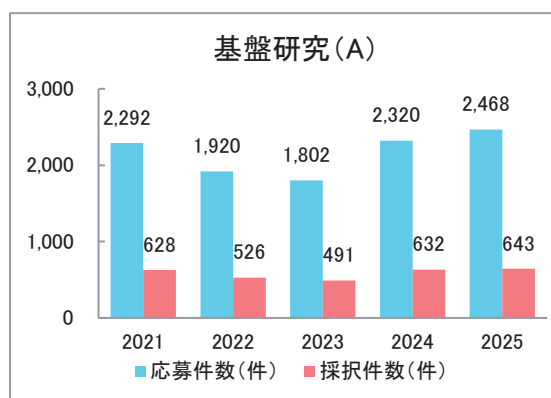
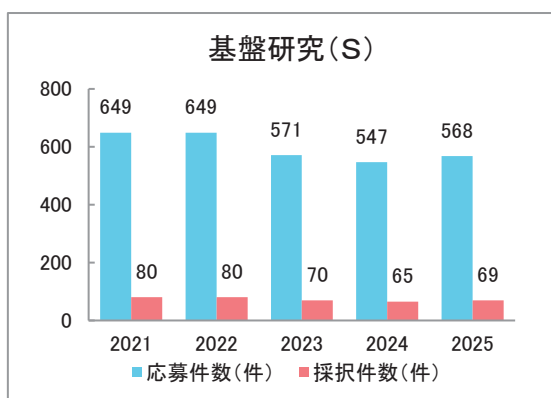
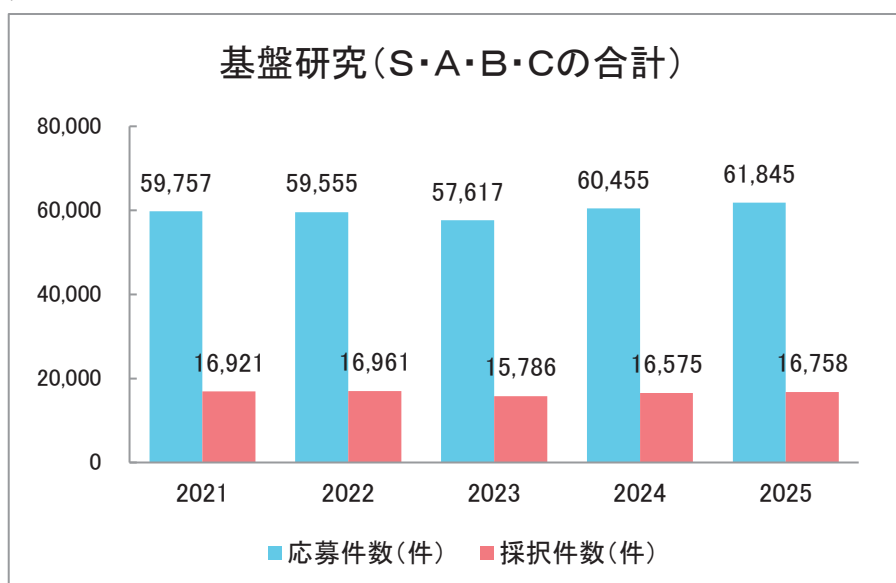
研究種目別の応募件数・採択件数の推移

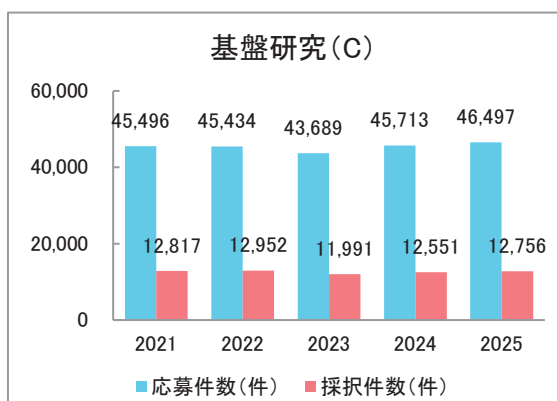
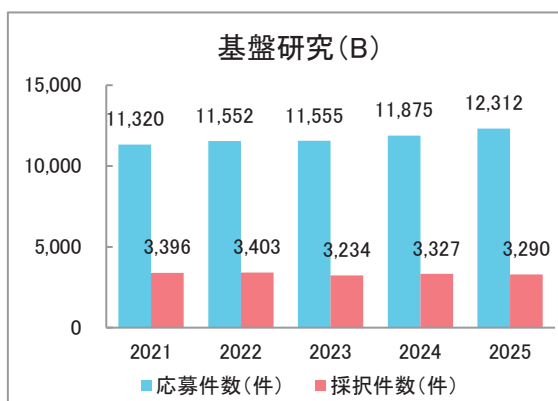
○応募件数・採択件数の推移

(1) 特別推進研究

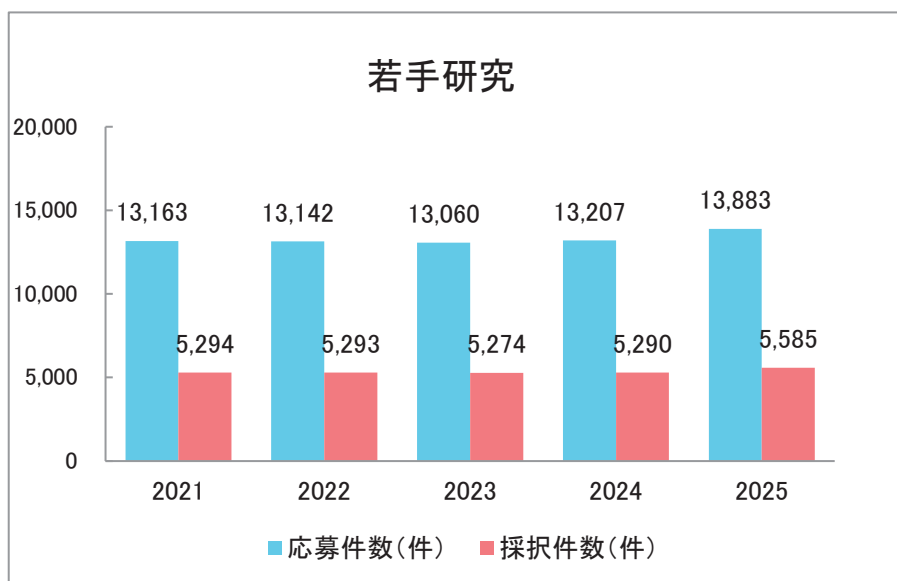


(2) 基盤研究

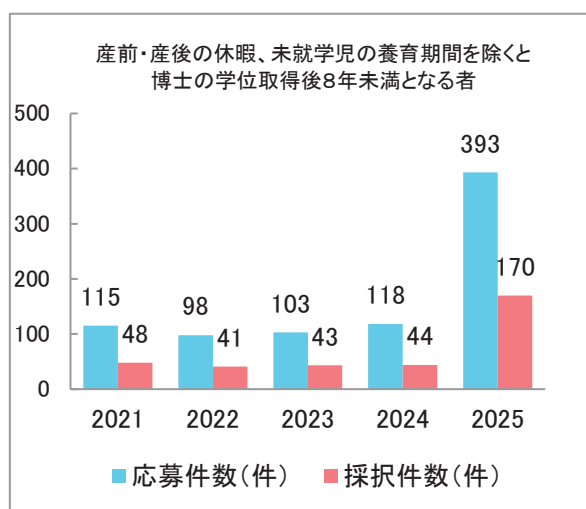
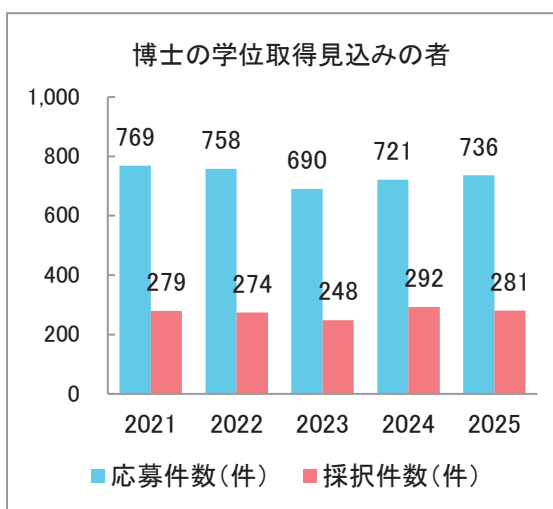




(3) 若手研究

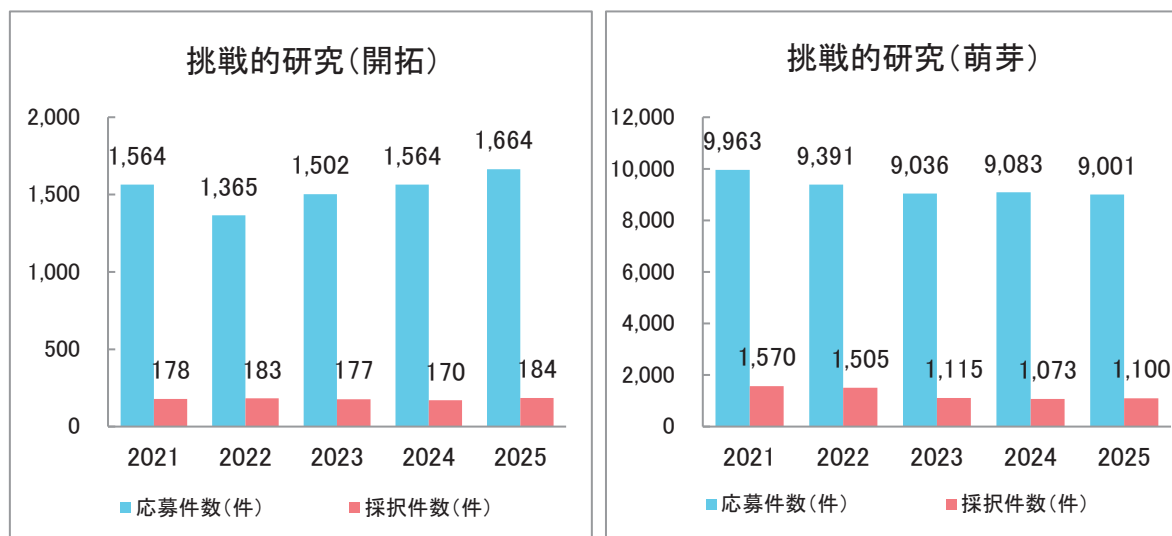


※平成30(2018)年度より、若手研究(A)は公募を停止し若手研究(B)は「若手研究」に名称を変更

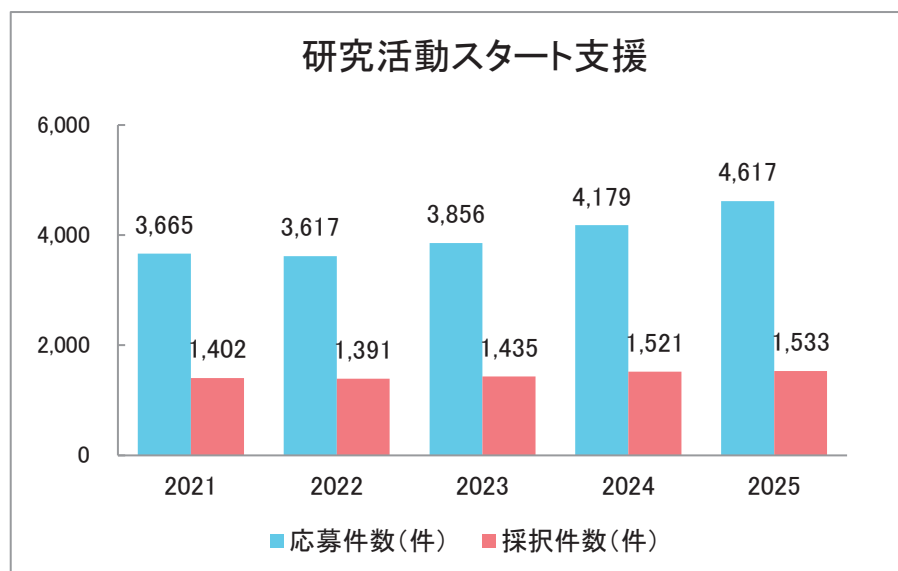


※2024年度までは「産前・産後の休暇、育児休暇期間を除くと博士の学位取得後8年未満となる者」

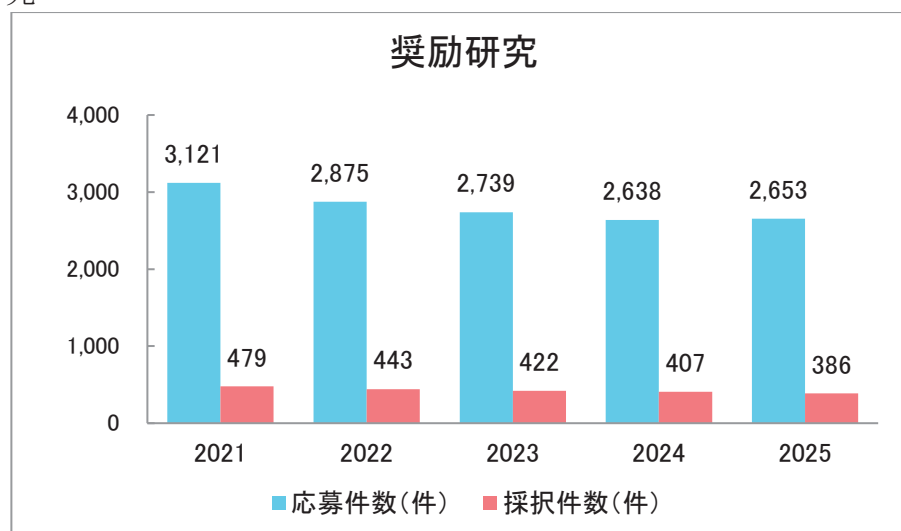
(4) 挑戦の研究



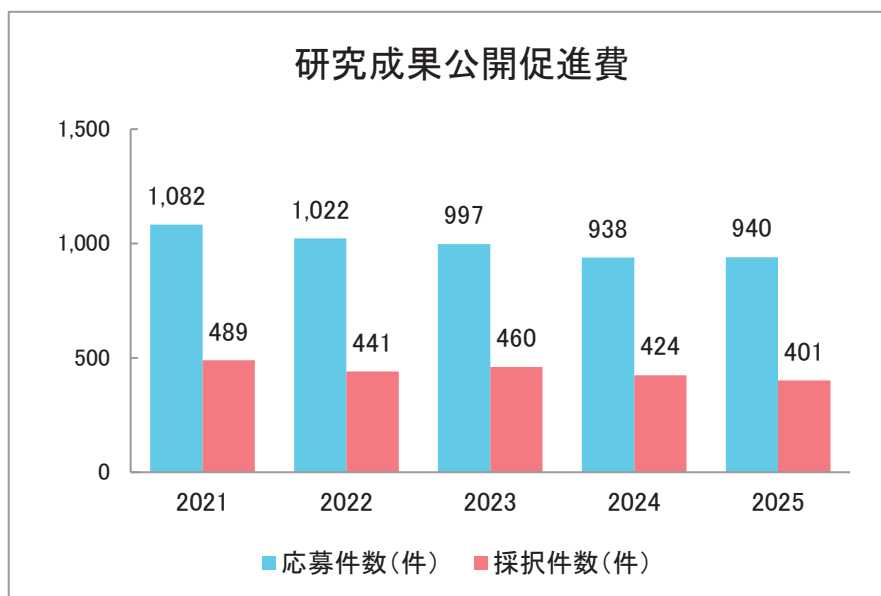
(5) 研究活動スタート支援



(6) 奨励研究



(7) 研究成果公開促進費（研究成果公开发表、国際情報発信強化、学術図書、データベース）



※令和元(2019)年度より、「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」を研究成果公開促進費（研究成果公开发表）として、公募と審査を実施。

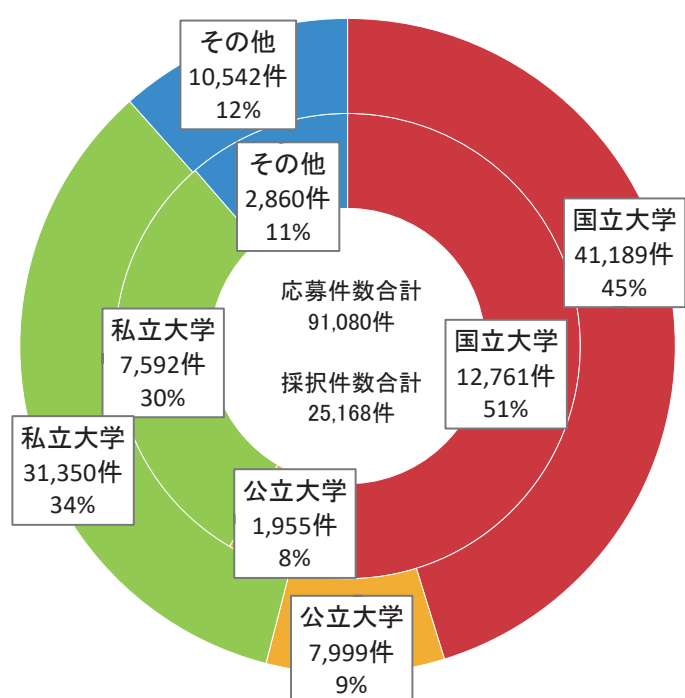
研究機関種別の応募・採択等の状況

区分	応募件数	採択件数	採択率	配分額(千円)	平均配分額(千円)
国立大学	41,189	12,761	31.0%	34,438,400	2,699
公立大学	7,999	1,955	24.4%	3,522,000	1,802
私立大学	31,350	7,592	24.2%	12,940,700	1,705
その他	10,542	2,860	27.1%	7,241,700	2,532
短期大学、 高等専門学校	2,631	339	12.9%	534,000	1,575
大学共同利用機関法人	793	255	32.2%	976,100	3,828
国公立試験研究機関	1,086	320	29.5%	581,100	1,816
特殊法人、 独立行政法人等	5,021	1,644	32.7%	4,461,900	2,714
一般社団法人、 一般財団法人	740	230	31.1%	481,200	2,092
企業等の研究所	271	72	26.6%	207,400	2,881
合 計	91,080	25,168	27.6%	58,142,800	2,310

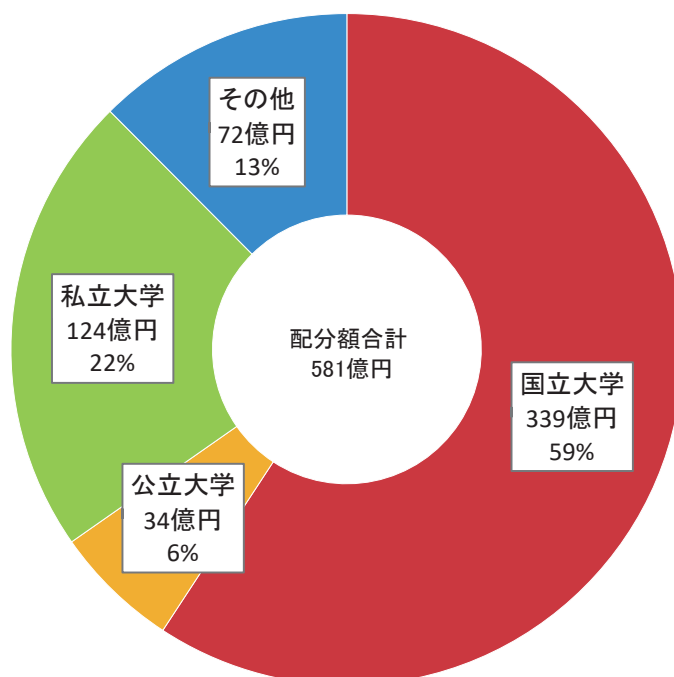
※対象:「特別推進研究」、「基盤研究(S・A・B・C)」、「特設分野研究」を除く、「若手研究」、「挑戦的研究(開拓・萌芽)」、「研究活動スタート支援」

応募・採択件数

※外円は応募件数、内円は採択件数



配分額

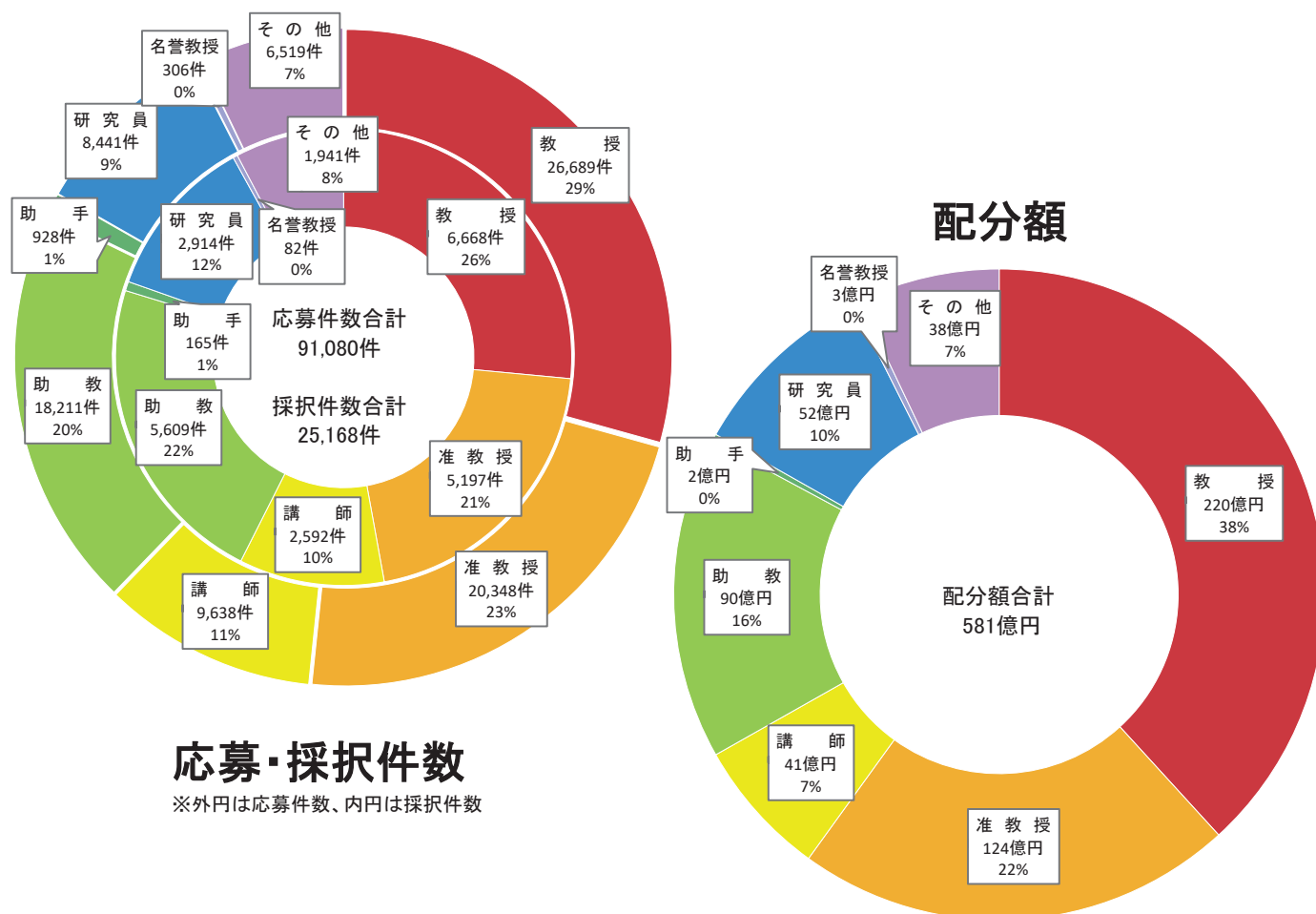


※円グラフに表示されている割合・値については、四捨五入のために、合計が100%や合計値にならないことがある。

職種別の応募・採択等の状況

区分	応募件数	採択件数	採択率	配分額(千円)	平均配分額(千円)
教 授	26,689	6,668	25.0%	22,221,300	3,333
准 教 授	20,348	5,197	25.5%	12,641,100	2,432
講 師	9,638	2,592	26.9%	3,985,500	1,538
助 教	18,211	5,609	30.8%	9,320,500	1,662
助 手	928	165	17.8%	199,600	1,210
研 究 員	8,441	2,914	34.5%	5,462,900	1,875
名誉教授	306	82	26.8%	210,900	2,572
そ の 他	6,519	1,941	29.8%	4,101,000	2,113
合 計	91,080	25,168	27.6%	58,142,800	2,310

※対象:「特別推進研究」、「基盤研究(S・A・B・C)」、「特設分野研究」を除く、「若手研究」、「挑戦的研究(開拓・萌芽)」、「研究活動スタート支援」

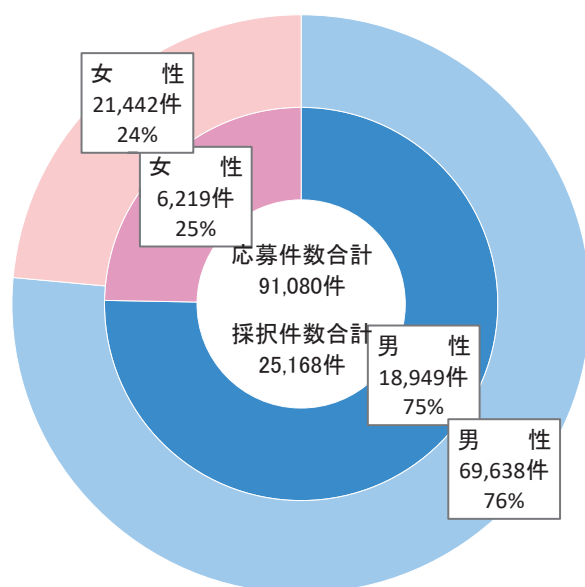


※円グラフに表示されている割合・値については、四捨五入のために、合計が100%や合計値にならないことがある。

男女別の応募・採択等の状況

区分	応募件数	採択件数	採択率	配分額(千円)	平均配分額(千円)
男 性	69,638	18,949	27.2%	48,131,600	2,540
女 性	21,442	6,219	29.0%	10,011,200	1,610
合 計	91,080	25,168	27.6%	58,142,800	2,310

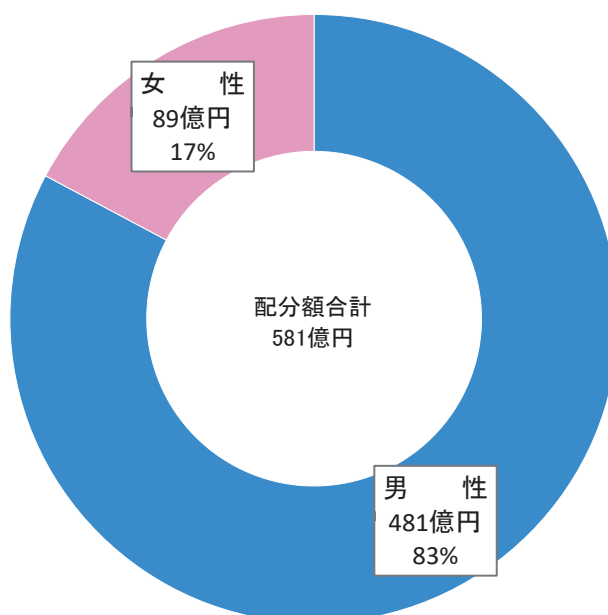
※対象:「特別推進研究」、「基盤研究(S・A・B・C)」、「特設分野研究」を除く、「若手研究」、「挑戦的研究(開拓・萌芽)」、「研究活動スタート支援」



応募・採択件数

※外円は応募件数、内円は採択件数

配分額

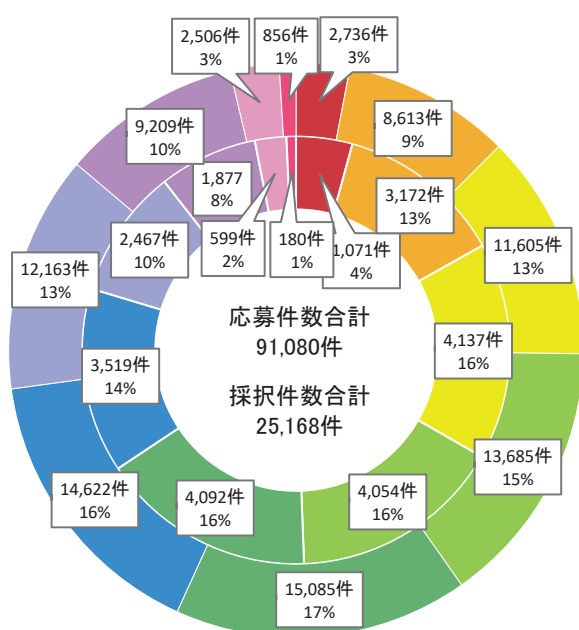


※円グラフに表示されている割合・値については、四捨五入のために、合計が100%や合計値にならないことがある。

年齢別の応募・採択等の状況

区分	応募件数	採択件数	採択率	配分額(千円)	平均配分額(千円)
30歳未満	2,736	1,071	39.1%	1,355,600	1,266
30歳以上 35歳未満	8,613	3,172	36.8%	5,281,400	1,665
35歳以上 40歳未満	11,605	4,137	35.6%	7,904,900	1,911
40歳以上 45歳未満	13,685	4,054	29.6%	8,584,300	2,117
45歳以上 50歳未満	15,085	4,092	27.1%	10,086,600	2,465
50歳以上 55歳未満	14,622	3,519	24.1%	9,654,200	2,743
55歳以上 60歳未満	12,163	2,467	20.3%	7,255,700	2,941
60歳以上 65歳未満	9,209	1,877	20.4%	5,612,200	2,990
65歳以上 70歳未満	2,506	599	23.9%	1,992,400	3,326
70歳以上	856	180	21.0%	415,500	2,308
合 計	91,080	25,168	27.6%	58,142,800	2,310

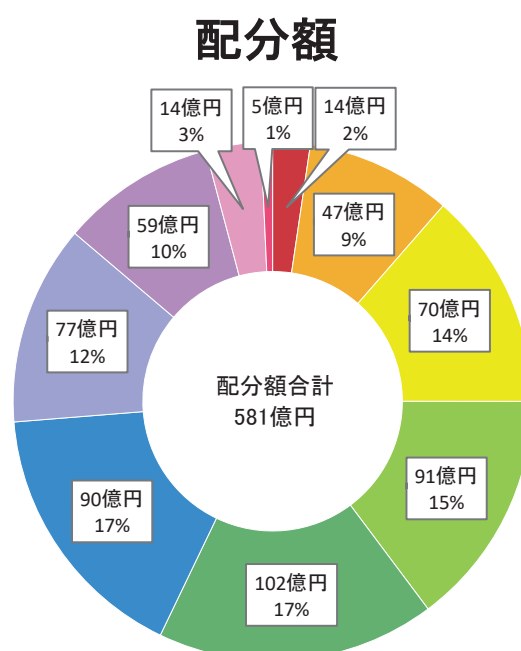
※対象:「特別推進研究」、「基盤研究(S・A・B・C)」、「特設分野研究」を除く、「若手研究」、「挑戦的研究(開拓・萌芽)」、「研究活動スタート支援」



応募・採択件数

※外円は応募件数、内円は採択件数

- 30歳未満
- 30歳以上 35歳未満
- 35歳以上 40歳未満
- 40歳以上 45歳未満
- 45歳以上 50歳未満
- 50歳以上 55歳未満
- 55歳以上 60歳未満
- 60歳以上 65歳未満
- 65歳以上 70歳未満
- 70歳以上



※円グラフに表示されている割合・値については、四捨五入のために、合計が100%や合計値にならないことがある。